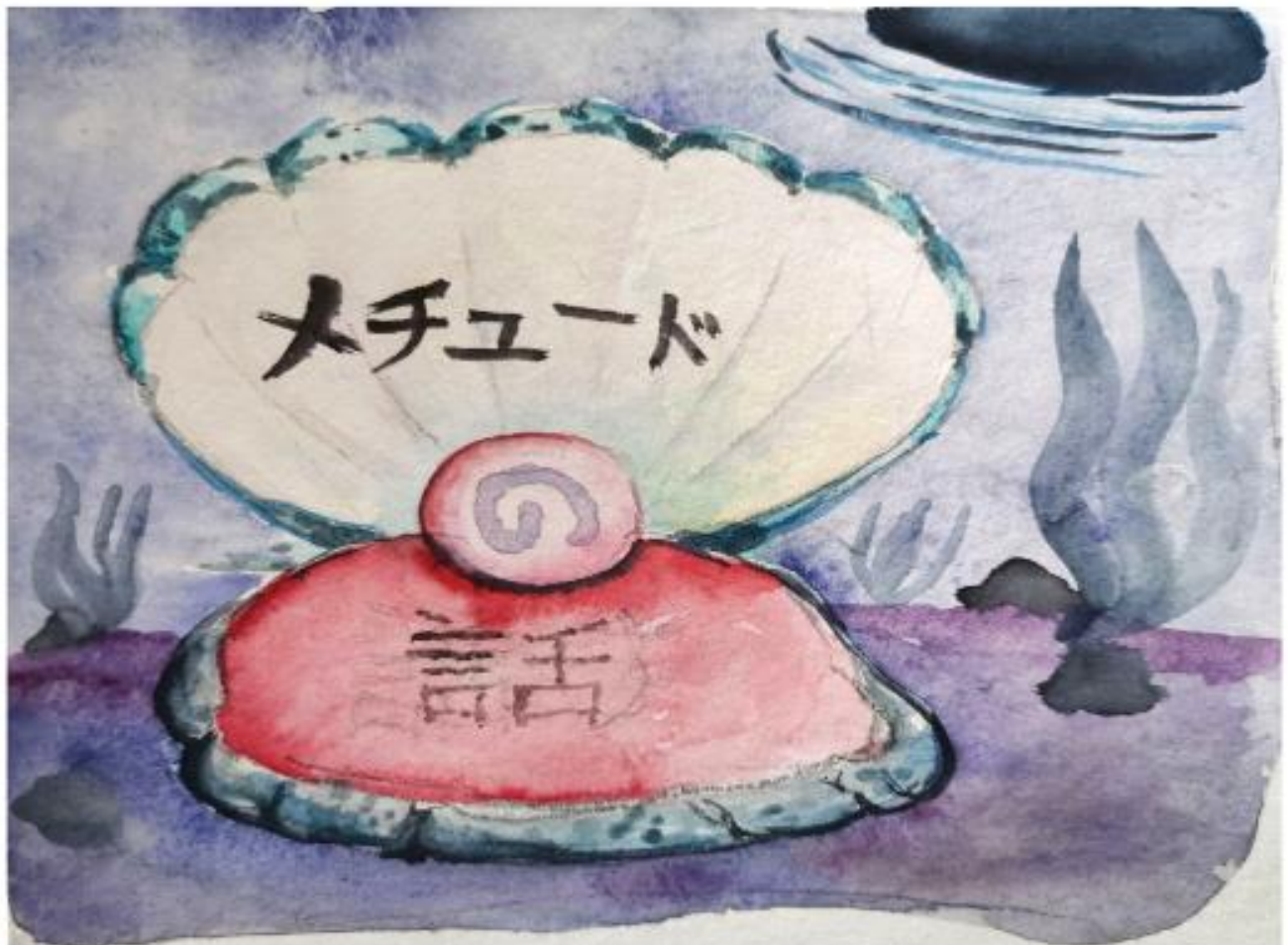


はなし  
メチュードの話



にほんご  
日本語・イラスト / エクトル・モレノ

はなし てつだ ひと つもり あきこ  
お話を手伝った人 / 津森 明子

ことば せつめい  
\*\*\*言葉の説明\*\*\*

しんじゅ  
真珠 Pearl / Perla

かみ  
神さま God / Dios

あくま Devil / Demonio

ゆうれい Ghost / Fantasma

おぼれさせる Drown / Ahogar

むかしむかし

昔々、メキシコのバハカリフォルニアという

はんとう

半島に、ペリクという人々が住んでいました。

ひとびと す

そのとき、海にはきれいなものがいっぱいあり  
ました。



おお

多くのペリクは海で真珠をとる仕事をしていま  
した。

うみ しんじゅ

しごと

まいにち  
毎日、ペリクたちは、<sup>しんじゅ</sup>真珠を 301<sup>こ</sup>個あつめました。  
た。

しごと お あと さいご <sup>しんじゅ</sup>真珠 <sup>あたま</sup>頭 <sup>うえ</sup>上にあげ  
仕事が終わった後、最後の真珠を頭の上にあげ  
<sup>かみ</sup>て神さまにいのりました。

「この<sup>しんじゅ</sup>真珠は、<sup>かみ</sup>神さまのものです」

そして 301<sup>こめ</sup>個目の<sup>しんじゅ</sup>真珠を<sup>うみ</sup>海に<sup>な</sup>投げ、<sup>むら</sup>村に<sup>かえ</sup>帰りました。  
した。

それはペリクのやり方<sup>かた</sup>でした。

みんなそうやっていました。

ある日ひとりの男が来て、ペリクたちと一緒に  
働き始めました。



仕事が終わった後、男は「私はまだ仕事を続けたいです」と言いました。

ペリクたちは言いました。

「もう夕方ゆうがたです。海はあぶうみなくなりましたか  
ら、あした行いった方ほうがいいですよ。それに、私わたし  
たちは神かみさまに301個こめ目の真珠しんじゅをあげてしま  
いました」

おとこ 男いは言いました。

「301個こめ目の真珠しんじゅ？ ばからしい。私わたしはもう一  
つしんじゅの真珠をさがしに行いこう」

ペリクたちは帰かえる準じゅん備びをしていましたが、男おとこ  
を待まつことにしました。

わたし ふね ま  
「私たちは船で待っています。だから、あなたは  
しんじゅ い おとこ  
は真珠をさがしに行ってもいいですよ」と、男  
い  
に言いました。

おとこ い  
男は言いました。

こめ しんじゅ かみ しんじゅ  
「301個目の真珠が神さまの真珠なら、302  
こめ しんじゅ しんじゅ  
個目の真珠はあくまの真珠だ」

ふね うみ  
そして、船から海にとびこみました。

ま おとこ  
ペリクたちはしばらく待っていましたが、男は  
もど き  
戻って来ませんでした。



ペリクたちは <sup>おとこ</sup>男 を たすけた かった の ですが、 <sup>うみ</sup>海  
が <sup>くら</sup>暗 くな っ て <sup>なに</sup>何 も <sup>み</sup>見 え ませ ん で し た。



つぎ あさ おとこ  
次の朝も、男はみつきりませんでした。

おとこ かみ まえ  
男が神さまの前ではいけないことをしたから、あくまにつかま<sup>い</sup>ったと言っているペリクもいました。

つぎ あさ うみ しんじゆ  
その次の朝、ペリクたちは海で真珠をさがして  
いましたが、ひとり<sup>ひとり</sup>のペリクが誰かに<sup>だれ</sup>足を引<sup>あし</sup>っ張<sup>ひ</sup>ら<sup>ぱ</sup>れました。

なに  
何かが、そのペリクをおぼれさせようとしていました。

むらびと うみ なか へん み  
村人も、海の中に変なものを見ました。

「この真珠の場所には男の幽霊がいて、泳いで  
いる人の足を引っ張っておぼれさせる」と言わ  
れるようになりました。



ゆうれい み ひと ゆうれい あたま かお  
幽霊を見た人は、幽霊の頭と顔ぜんたいに、

なが かみ け い  
長い髪の毛とひげがあると言います。

おとこ ゆうれい  
男の幽霊はメチュードとよばれています。

メチュードは、まだいるかもしれません。

うみ はい き  
海に入るときはメチュードに気をつけなければ  
なりません。

ご  
(604語)